

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	()
目標年度	令和17年度
市町村名 (市町村コード)	神戸市 (28100)
地域名 (地域内農業集落名)	岩岡地区 (西脇集落)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	39.3 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	39.3 ha
② 田の面積	34.1 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	5.2 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	8.0 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	15.4 ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

・現在、西脇地区では、主食用水稻(キヌムスメ キヌヒカリ コシヒカリ)やキャベツ栽培を中心に、カリフラワー、ブロッコリー、ケール、レタス、ごぼう、にんじん、じゃがいも、ほうれん草などの野菜類に加え、いちじく、みかん、いちご等の果物、コスモス等の花類を生産している。

・後継者がいない、継がせられないと考える世帯も多く、今後耕作ができなくなる農地が増えてくることも予想される。

・ため池の草刈り・清掃などの共同作業や水利や農会などの役員の負担について、高齢化により、この先、数年以降の適正管理体制にも懸念が生じている。

・区画整理から50年ほど経過し、パイプラインの経年劣化の不安も生じている。

・不整形かつ小さい農地が多く、効率的な営農の障壁となっている。

・市街化区域と隣接することから、犬の散歩マナー違反や大型車両の往来が多く、営農上の支障をきたしている。

・アライグマやイタチ、ヌートリア、ヒヨドリの被害が目立ってきている。捕獲かごを設置しても十分な効果を上げられない。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

・現在生産している水稻、野菜、果物、花類の生産に継続的に取り組みつつ、より高収益な作物やBEKOBÉ農産物の取り入れについても検討する。

・必要に応じ共同作業の内容を見直し、共同作業があっているものとそうでないものに仕分けしたり、地域外の耕作者には慣れるまでの世話をするなど、適切で持続的な地域農業を検討する。

・耕作を続けられなくなった方の農業機械や果樹などを再活用し、コストを抑えた営農を検討する。

・電柵補助事業の活用や効果的な捕獲方法の模索など有害鳥獣対策に取り組む。

・農家ではない周辺住民などに、農業インフラの大切さを伝えたり、農業への関心を高める体験提供など農業への理解を深めてもらう取り組みを取り入れることでマナー向上や地域消費へつなげる。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
・目標地図を活用し、「農業を担う者」がいる農地、いない農地を集落として俯瞰的に把握・共有する。 ・「農業を担う者」のいない農地について、今後、誰がどのように耕作・管理していくのかを協議し、「農業を担う者」のいる農地については、必要に応じて農地の集約化を検討する。			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	15.1	%	将来の目標とする集積率 30 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
・目標地図に示した範囲を集積していくことにより、団地面積を拡大していく。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組									
・不整形な小面積農地は段階的に集約化を図り、効率的な農地を確保していく。									
(2)農地中間管理機構の活用方法									
・営農の継続性の高さや人物像などを確認できるような形で、必要に応じて農地バンクを活用する。									
(3)基盤整備事業への取組									
・必要に応じて検討する。									
(4)多様な経営体の確保・育成の取組									
・営農組合の設立や法人化は難しいが、グループ単位で引き受けや人手が必要な作業時に協力し合うことができる多様な農業経営体制を検討する。									
・大学などの研修を受け入れて、より将来的な担い手との関係構築を検討する。									
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組									
・必要に応じて、草刈りや耕作等の作業委託を検討する。									
以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)									
☐	①鳥獣被害防止対策	☐	②有機・減農薬・減肥料	☐	③スマート農業	☐	④畑地化・輸出等	☐	⑤果樹等
☐	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	☐	⑧農業用施設	☐	⑨耕畜連携等	☐	⑩その他
【選択した上記の取組内容】									

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 17 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
利用者		野菜、果樹	202.9 a	a	野菜、果樹	202.9 a	a	1	
認農		野菜	44.5 a	a	野菜	44.5 a	a	2	
利用者			121.6 a	a		121.6 a	a	3	
利用者		野菜、果樹	57.4 a	a	野菜、果樹	57.4 a	a	4	
利用者		水稻	53.1 a	a	水稻	53.1 a	a	5	
利用者			16.6 a	a		16.6 a	a	6	
利用者		水稻、野菜、果樹	100.6 a	a	水稻、野菜、果樹	100.6 a	a	7	
利用者		水稻	93.1 a	a	水稻	93.1 a	a	8	
利用者		水稻	16.1 a	a	水稻	16.1 a	a	9	
利用者		水稻、野菜	54.6 a	a	水稻、野菜	54.6 a	a	10	
利用者		水稻、野菜	129.4 a	a	水稻、野菜	129.4 a	a	11	
認農		野菜	89.4 a	a	野菜	89.4 a	a	12	
認農		野菜、果樹	126.5 a	a	野菜、果樹	126.5 a	a	13	
認農		野菜、花	172.6 a	a	野菜、花	172.6 a	a	14	
認農		水稻、野菜、花	162.2 a	a	水稻、野菜、花	162.2 a	a	15	
利用者		水稻、野菜、果樹	102.0 a	a	水稻、野菜、果樹	102.0 a	a	16	
計			1,542.5 a	a		1,542.5 a	a		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。
注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。
注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有に当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。